

手許にある写真から思い出をたぐってみたが、半端なことしか書けないことが分かった。AIの時代になっても写真が70余年前を蘇らせてくれるのが嬉しいので、少しでも書き残しておこうと思う。昔話とはいえ、個人情報に深入りしているのをお許しいただきたい。

まずは入学後1Eの集合写真から：

・大和久先生の上着は七つボタンの予科練だったか？
生徒に制服がなく、先生方も様々で、東洋史のショッタン先生の黒くテカテカの脇ポケットを今も忘れない。女生徒は清水谷のセーラー服が何人かいたが、カラフルなお洒落が目についた。男は詰襟・白カラー・金ボタンが多かったが、栗原のようにグレーがいても違和感がなかった。服装からが自由の高津だった。

・前列5人の名前を今更ながら並べれば、石崎・斧・中西・野口・平嶋 であるが、Nのほかは皆が大阪大学だった。

野口さんと隣合わせなのはズームメイトに説明不要、斧のことはかねてHPで述べたが、次に故平嶋恒亮のことを。互いに家が近く、先祖の墓詣りの折にも立ち寄ったが、20年程前に他界した。森之宮の大阪市工業研究所々長を退職後、近畿大の教授を勤めた。中国の学界に知己が多かったのか、立派な軸が掛かっていた。早くから白髪で優しい男だったが、JAL123便の事故で亡くなった社長との義理で後継を頼まれて悩んだときは深刻だった。1Eには知る範囲だけで阪大出が上記のほかに5人いる。

・先生がキツタカと促音でない呼び方をされた橘高博(写真3列目の右から2番目)と中百舌鳥の電気と同級、彼は卒研が電気理論講座、自分が電気材料のこともあって交流がなかった。彼は卒業後、家業の産業向け電機品の営業を継いだ。60で失明して年賀状も交わさなくなったのが気の毒で、残念である。

・男子は4列目の黒い丸縁眼鏡の一人以外は全員の名前が今でも思い出せるが、女子は城(松原)さんだけである。男女を通じて3年とも同級だったのは城さんただ1人、それも十何年か前に彼女から聞いて分かった。

・物理の授業から： $V=gt$ $S=1/2gt^2$ は自由落下、積分の基本(聡明な高津OB・OGにご無礼)

・ワクサンの口癖「そんなこと考えてたら頭禿げるぞ」を皆さん覚えていませんか。

・3年間に物理・化学・生物を学んだが、人格と教え方が生徒に伝わってくる先生方で、他科目と並ぶ立派な教諭陣だったとつくづく思う。



2Dのこと：佐々木先生が美術家だったからか、この組には自由奔放の空気が流れていた。

・佐々木先生が藤井寺球場近くにお住まいだったので、同じ沿線の私はここへ移住する前ご挨拶に訪ねた。広いアトリエに由来不明な電子部品や機械部品が並んで、大きな額縁にはめ込まれていた。80になられても国画会々員の現役のようだった。

・この写真に故高村・故伊藤・坂本・額田・太田隆次・藤本さんらの諸兄、城さんと故鳥居純子さんらが並んでいます。



・率は他の組と大差ない筈なのに南中出身で、心齋橋など商家の子女が目だって何か雰囲気が違うように思った。大沢・片岡（2人とも故人）ら熱い映画ファンの話が休み時間に多かったが不快に思った覚えがない。彼らの都会センスに好感したからだろうか。

3Bのこと：写真がありません。お持ちの方、よろしくお願いします。

・池田先生は旧制高津中学定時制から広島高師を出て、母校教諭になられたとご本人から聞いたように思っている。図書館や水泳部のことは諸兄が述べられているとおり。流暢な大きな字を黒板に書かれた思い出がある。今思う残念なことは、先生が府立生野高校（大阪市内から松原市に移転）の校長になられたことを知りながら、近くに住む私が訪ねなかったことである。同窓会で顔を合わせるのとは違う親しく話げできたのにと、残念でならない。5年程後に佐々木先生を訪ねたのは、この反省があったからだ。

・2015年7月の同期会で配布された名簿で住所記載が28、不明が11、物故が9で計48名であるが、現状は？ 故村尾さんのことは皆さんご存じのとおり、同じ電気で交流があった阪大出の故村岡兄は数年前に他界。

・親しかった**矢野祥太郎**について：彼はJALのパイロットを長年つとめた。2人はリタイア後に別府航路を往復、九州をレンタカーで1週間巡るなど親しくしていたが……。詳しくは以前5期生のHPに載せた「認知の余話」から抜粋した下記をご一読いただきたい。親しかった友に申訳ないが、これが人生の冷たい現実かと思いつつ、稿を閉じる。

（おわり）

認知の余話 二話 京都府立網野高校から高津へ転入学したY君。私が舞鶴から大阪へ転勤したとき、上六で会計事務所を開いていたI君ら6人の仲間にYがいた、45年前のことである。丹後の名山・酒吞童子（赤鬼）で知られる大江山、秋のすすき原の素晴らしさなど共通の話題があった。彼は東京商船大学へ入ったが1年後に航空大学校へ、海よりも空を飛びたかったようだ。主としてヨーロッパのあと、退役前はオーストラリア・NZの南北航路に。ベテラン機長は燃費向上のため満タンにせず離陸すると言う、荒天時着陸予定地が変わると残り燃料が心配で、ジャンボ機体と乗客の命を預かる一切が自分にかかってストレスになる。ベトナム戦争のときは1万mの高空から艦砲射撃を見物した、勤務の合間に旧ボルネオのキナバル山に登ったことなど、世界を股に掛けた男の話だった。リタイア後は2人で別府航路を往復、普通は入れないブリッジで船長に挨拶し夕陽に映える明石海峡大橋を眺め、レンタカーで九州一周の旅を楽しんだ。私の倅が屋久島勤務のとき、5日ばかり滞留して縄文杉、宮之浦岳などに雨中登山した。

西宮・広田神社近くの住まいを訪ねたこともある。こんなに親しくしていたYとコミュニケーションが途絶えたので電話したら、施設に入りましたと夫人の話。阪神電車・武庫川橋上駅で支線に乗り換えて彼を訪ねたらゆったりした一人部屋のベッドに横たわっていた。呼べど応えず、「Y来たぞ、俺やで、わかるか」と何回言っても分ったのかどうか？ 仕様がなくて部屋にあった歩行器に彼の身体を委ねて地上に降りた。100mほど歩いてスーパーの前に日除けとベンチがあったので、腰をおろしてアイスクリームとバナナを食べた。会ってから30分ほど経って何となく誰かが分かったような気がしたが、そこまでだった。こうなっては親しかった友達でも心が通じない、人間でなくなったかとしみじみ思った。後日夫人に報告したら「今後は……」と辞退されそれきりに。